

「分散型AIシステムで再注目される ネットワークエッジの活用」

- モバイルとエッジコンピューティングの歴史
- AIのためのエッジ再定義（端末、ネットワークエッジ等）
- エッジAIが求められる背景
- 通信事業者におけるAI活用のトレンド（ビジネス面、インフラ面）
- エッジAIユースケースや導入事例

講師	(座長) 上智大学 理工学部 客員教授 (ご挨拶/開催趣旨説明) マルチメディア推進フォーラムモバイル部会 部会長代理 (元・エリクソンジャパンCTO)	服部 武 氏
	ソフトバンク株式会社 先端技術研究所 無線統括部 基盤&AI室 室長 インテル株式会社 インダストリー事業本部 サービスプロバイダー事業統括 (講演順) クアルコムジャパン株式会社 マーケティング統括部長 デル・テクノロジーズ株式会社 Telecom Systems Business Principal System Architect	藤岡 雅宣 氏 山科 瞬 氏 久保 聡 氏 泉 宏志 氏 野地 真樹 氏

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190(代) FAX 03(6416)5351

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内 明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでも気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになってきている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信（機械と機械の通信）と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム — PART 973 — 」開催内容
(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「分散型AIシステムで再注目されるネットワークエッジの活用」

日時 2025年 4月 9日 (水) 13時00分～17時00分

時間	講演内容	講師
<p>(本フォーラムの趣旨・論点)</p> <ul style="list-style-type: none">● モバイルとエッジコンピューティングの歴史● AIのためのエッジ再定義 (端末、ネットワークエッジ等)● エッジAIが求められる背景● 通信事業者におけるAI活用のトレンド (ビジネス面、インフラ面)● エッジAIユースケースや導入事例		
<p>モバイルを含む通信事業者のネットワークにおける、エッジの活用の議論は新しいものではなく、アーキテクチャやユースケースなど、長らく議論されてきたテーマである。しかしながら、現在までの通信事業者における商用のエッジサービスは、一定の成功は収めているものの、必ずしも当初期待されたような市場規模の獲得には至っていないという認識が一般的である。これには、ユースケースの開発に際してあまりにもエッジによるネットワーク遅延低減に着目しすぎた点や、キャリアフリーなサービスが必須要件となるコンシューマ向けコンテンツプロバイダと、固有のエッジサービスとしてビジネスを建付けたい通信事業者の間に生じる矛盾など、幾つかの根本的な要因があると考えられている。</p> <p>一方で、昨今のAIに関する市場の盛り上がりや期待感は、ネットワークにおけるエッジの有効性をあらためて認識する絶好の機会となる可能性がある。より多くのデータからAIモデルを作成するAIや機械学習における「学習 (トレーニング)」の用途には、中央集中型の計算処理基盤が理にかなっている一方で、入力データに対する速やかな応答の作成や、爆発的に増えることが予測される入力データを効率的に処理しなければならない「推論 (インファレンス)」の工程では、処理基盤 (の一部) を分散させることが求められると考えられている。推論システムを分散配置することで、一部の極めて遅延要求の高いAIユースケースや、データインテンシティの高いAIユースケース (例; マルチモーダルなデジタルツインシステム) を効率的に処理することが出来ることが望まれている。</p> <p>本フォーラムでは、AIによる計算基盤を作成する上での主要な役割を担う、通信事業者、チップセットサプライヤ、ハードウェアサプライヤのエキスパートから、これまでのエッジコンピューティングの振り返りや現状の分析、AIを活用することで今後期待されるあらたなエッジコンピューティングの可能性について論じていただく。</p>		
<p>(座長) 上智大学 理工学部 客員教授 服部 武</p>		

13:00 ～ 13:10	(ご挨拶/開催趣旨説明)	質疑 応答	藤岡雅宣氏 マルチメディア推 進フォーラム モバイル部会 部会長代理 (元・エリクソン ジャパンCTO)
13:10 ～ 14:05	「通信事業者が考えるエッジAIの真の価値」 ●通信事業者におけるAI/機械学習への取り組み ●エッジAIの各種ユースケース ●今後への期待や現状の課題	質疑 応答	山科瞬氏 ソフトバンク株式 会社 先端技術研究所 無線統括部 基盤&AI室 室長
14:05 ～ 15:00	「GPU/NPUを用いたAI分散処理基盤が実現する世界」 ●AI/機械学習における GPU/NPU の役割 ●通信事業者が AI/機械学習で果たす役割 ●市場トレンド ●インテルが掲げる分散型 AI 処理基盤とは	質疑 応答	久保聡氏 インテル株式会社 インダストリー事 業本部 サービスプロバイ ダー事業統括
(休憩) (15:00～15:10)			
15:10 ～ 16:05	「ネットワークエッジとしてのNPUの役割と可能性」 ●AI/機械学習におけるNPUの役割 ●クアルコムでの取り組み ●市場トレンド ●NPUによる各種AIユースケース	質疑 応答	泉宏志氏 クアルコムジャパ ン株式会社 マー ケティング統括部 長
16:05 ～ 17:00	「分散型AIシステムで再注目されるネットワークエッジの活用」 ●エッジコンピューティングの歴史の振り返り ●AI時代のエッジの再定義 ●デル・テクノロジーズの取り組み ●AIネイティブな通信ネットワークとは ●エッジAIの各種ユースケース	質疑 応答	野地真樹氏 デル・テクノロジ ーズ株式会社 Telecom Systems Business Principal System Architect

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

委員長
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授

(運営諮問委員会幹事)

代表幹事
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授

副代表幹事
服部 武 上智大学 理工学部 客員教授
森川 博之 東京大学 大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授
成宮 憲一 一般社団法人 科学技術と経済の会 専務理事

幹事
尾上 誠三 国際電気通信連合 (ITU) 電気通信標準化局長
秋本 芳徳 総務省 大臣官房総括審議官
間宮 淑夫 内閣官房 内閣審議官
渡邊 昇治 経済産業省 商務情報政策局 総務課長
西尾 崇 国土交通省 大臣官房 技術調査課 建設技術政策分析官
立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所 取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

伊藤 寿浩 日本放送協会 技術局長
川添 雄彦 日本電信電話㈱ 代表取締役副社長
桂 一詞 西日本電信電話㈱ 代表取締役常務 常務執行役員
岡 敦子 日本電信電話㈱ 常務執行役員 研究企画部門長
池田 敬 日本電信電話㈱ 執行役員 技術企画部門長
佐藤 隆明 ㈱NTTドコモ 代表取締役副社長 CTO、CAIO、CPO
菅原 英宗 NTTコミュニケーションズ㈱ 代表取締役副社長
伊東 匡 NTTアドバンステクノロジー㈱ 代表取締役社長

星野 理彰 ㈱エヌ・ティ・ティ エムイー 取締役執行役員専務
田中 秀彦 株式会社NTTデータグループ 執行役員
吉村 和幸 KDDI㈱ 取締役執行役員専務
宮川 潤一 ソフトバンク㈱ 代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO
石原 直 東京大学大学院 工学系研究科 特任教授
浅見 徹 ㈱国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長
遠藤 信博 日本電気㈱ 特別顧問
新野 隆 日本電気㈱ 取締役 会長
木内 道男 日本電気㈱ 執行役 Corporate EVP 兼 テレコムサービスビジネスユニット長

高木 康志 富士通 (株) システムプラットフォームビジネスグループ エグゼクティブディレクター (ネットワーク担当)

石田 貴一 ㈱日立製作所 事業部長
伊藤 明男 ㈱日立国際電気 副社長執行役員
ジ・エシ・ジョン・ウォン ㈱アリュエーション&ネットワーク 代表取締役社長

(主な設立発起人)
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授
吉川 弘之 東京大学 元 総長
立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所 取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

杉本 榮一 自由民主党 元 政務調査会 調査役

(最高顧問)
甘利 明 元・経済産業大臣
金子 一義 元・国土交通大臣
林 芳正 元・防衛大臣

マルチメディア推進フォーラム – PART973 – 開催

●日時 2025年 4月 9日 (水) 13時00分～17時00分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。
オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申し込み下さい。
(一部、一般受講も受付けておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●参加申込要領

●受講料 ¥54,000.- (消費税を含む)

●申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190
〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351
E-mail fm@ahri.co.jp

●申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。

●送金方法 銀行振込 **みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932 (普)**
三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普)
※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。

●キャンセル フォーラム開催前、4月2日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡をお願い申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は代理の方の出席が当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。

●申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

きりとり線

「マルチメディア推進フォーラム – PART973 – 申込書

(申込日) 月 日

会社名		TEL () -
		FAX () -
		E-mail:
会社住所	〒	
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名(ふりがな)

支払方法	●銀行振込 () 銀行 ●年 月 日振込予定	通信欄 請求書一要・不要